

新春 スペシャル対談

自然と文化の調和が紡ぐ 子育て・教育にふさわしいまちへ

芦屋市長

2023ミス日本グランプリ

高島 峻輔 × 吉岡 恵麻

『第55回2023ミス日本コンテスト』でグランプリを受賞した芦屋市出身の吉岡恵麻さん。
2023年5月に史上最年少で市長となり、就任から約半年を迎えた高島市長。
希望あふれるおふたりに今後の目標や芦屋市の未来について、語り合っていました。



—ミス日本・市長を目指したきっかけは？

吉岡：理由は2つあって、1つはミス日本のファイナリストになると勉強会に参加できることです。勉強会の中に、日本最古の流派であるお能の先生の授業があり、私は古典文学が好きなので受けてみたいと思ったこと。もう1つは、アルバイト先のテレビ局で元衆議院議員の金子恵美さん(元ミス日本関東地区代表)とお会いし、素晴らしいお人柄に触れ、そういう人になりたいと思ったことです。

高島：ファイナリストだけが出られる勉強会があるのですね。



吉岡：はい。4カ月くらい勉強会があり、ここでは能だけでなく、生け花、浮世絵、ウォーキングなどさまざまなことが学べます。勉強会に参加したいからミス日本を志すという方もおられます。

高島：そうなんですね！初めて知りました。私が市長に立候補したきっかけは、市長が世の中を変えられる仕事だと感じたことです。小6の時、当時住んでいた箕面市で市長が30代に若返り、街の変化を実感しました。さまざまな行政職の中でも、市長は市民・国民に最も近く、密接に仕事ができる存在です。市政を変えることは、市民生活をよくすることに直接つながる。こんな素晴らしい仕事はないと思いますし、その想いは就任後ますます強まるばかりです。

—芦屋の好きなところ・好きな過ごし方は？

高島：ひとつ挙げるなら、人の温かさが好きです。自然豊かな住環境も素晴らしいですが、この環境を守ってこられた市民の皆さまの力こそが芦屋の魅力の源泉だなど。

吉岡：素敵ですね。

私は市長が今仰っていた自然環境、都市に近いのに自然が豊かなところが好きです。朝キツツキの音で目が覚めたり、カワセミが飛んでいたり、川がきれいな証拠です。

高島：芦屋にもキツツキやカワセミがいるなんて嬉しいです。休日には自然の中を散歩されるのですか？

吉岡：ランニングが好きで、芦屋川沿いを走ったり高座の滝まで走ったりします。出身の山手中学校の陸上部では高座の滝まで走るんですよ。

高島：確かに三条コミスクの運動会でも、山道をみんなで走っていました。

吉岡：アクティブなのでよく走っています。都会に近いのに自然を感じられ、優雅な気持ちで走ることができて嬉しいです。

市長はスポーツされたりしますか？

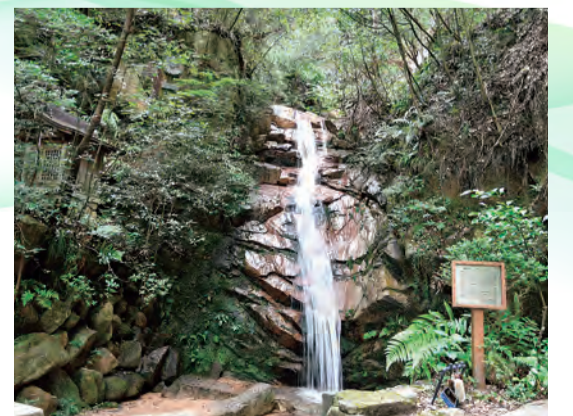
高島：中学から大学までラグビーをやっていましたし、スポーツは大好きです。コミスクの運動会でもいくつか競技に参加しました。本当はランニングもしたいのですが…続けるのは難しくありませんか？

吉岡：お忙しいですもんね。私も初めはランニングがそんなに好きではなかったんです。ですが、走っているうちにタイムを伸ばすことが楽しく思い始めて、続けているうちに好きになってきました。上達したら芦屋さくらファンランにも参加してみたいです。

高島：ご参加お待ちしております！

—古典文化の魅力とは？

吉岡：私は古典文化が好きで、魅力や面白さを若い世代の方に伝えていけたらと思っています。百人一首から興味を持ち始め、歌の意味を見るうちに、今も昔も考え方は同じだとか、感情に共感できることが面白いと思い始めま



高座の滝

2023ミス日本グランプリ

吉岡 恵麻 よしおか えま

芦屋市出身・関西学院大学在学中。
『第55回ミス日本コンテスト2023』でグランプリに輝いた。「日本らしい美しさ」を磨き、社会で活躍することを後押しする美のコンテスト。容姿だけでなく心の持ちようや社交性など幅広い人間性を問う。

特技は百人一首と硬式テニス。
趣味は神社仏閣巡り、ダンス、古典を読むこと。

将来の希望は多くの人に古典の魅力を伝えること、美しい日本語を話せるアナウンサーになること。

